

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700456		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	グループホームえぞりす・花しょうぶ(えぞりす)		
所在地	河西郡芽室町東3条1丁目2番地		
自己評価作成日	平成30年1月22日	評価結果市町村受理日	平成30年2月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022.kani=true&JigyosyoCd=0194700456-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでの創作活動には力を注いでいます。作品は町民文化展にも出品し多くの人に見てもらえた事で満足感を味わって頂いている。
後、ご家族が面会の際には許す限りの時間を使いお話しをして、情報交換を行う様にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームえぞりす・花しょうぶ」は、芽室駅から徒歩数分の町の中心地に立地している。大きな出窓に面した広々とした開放感のある居間と食堂で、回廊式の廊下に沿って居室が配置されている。窓際に季節の花や観葉植物が綺麗に飾られており、家庭的で落ち着いた雰囲気を感じられる。近隣にある同法人のグループホームと一緒に運営推進会議や避難訓練を実施したり、併設している高齢者介護予防施設へのボランティア訪問と一緒に楽しむなど、利用者間の交流を深めながら協力体制を整えてよりよい運営に向けて取り組んでいる。管理者は、法人研修や交換研修などを活用して職員の資質向上を図り、質の高いケアを日々実践している。毎月、折り紙などを使った個人製作にも積極的に取り組んでいる。法人理念をユニット毎に解釈することで、理念に対する職員の理解も深められている。排泄間隔を見ながら適切な支援を行い、失敗を少なくして綿パンツへ移行するなど排泄の自立に向けても取り組んでいる。受診時は、主治医と書面で情報交換しながら適切な医療支援を行っている。季節に応じたバイキングや外食などを取り入れて、食事が楽しめるように工夫している。職員は常にコミュニケーションを図りながら、一人ひとりの個性を活かしたその人らしい生活を明るく笑顔で日々支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域でその人らしく生活が出来るように理念を作り、事務所に掲示し職員全員で実践につなげる様に会議で話し合い、常に取り組んでいます。	法人共通の理念をユニット毎に詳しい解釈を付け、独自のケア理念として掲げている。職員に理念を記載した携帯カードを配布している。フロア会議や職員採用時に全員で再確認しながら実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町へ買い物に出掛けたり、神社のお祭りの山車を見学したり、町民文化展に出展し見学に出掛けたりしています。運営推進会議や避難訓練、家族会にも町内会長さんに参加して頂いている。誰でも気軽に面会に来て頂けるような雰囲気作りに努めています。	事業所で開催した認知症サポーター養成講座に地域住民が参加したり、家族会やクリスマス会に町内会長が出席している。大正琴やフラダンスのボランティアが来訪している。保育園や幼稚園に働きかけて、園児との交流につなげたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流に努めておりますが、まだまだ機会は少ない状態です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に毎に会議は開催し、入居者状況や活動報告などを行い、出席して頂く役場の方や町内会長、家族などより質問や意見などを得て、フロア会議などで職員に報告しサービス向上に繋げるように努めています。又、議事録を全家族へ配布し情報共有に努めています。	全家族に会議案内を送付して、近隣にある同法人事業所と合同で開催している。議事録と資料も送付している。活動報告や研修報告を行い、地域交流についても取り上げているが質疑応答は少ない。家族会と同日開催時は家族の参加は多いが、定期開催時の参加は少なくなっている。	メインテーマを記載した会議案内を全家族に送付し、参加できない家族の意見や質問なども会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中々お会いする機会は少ないですが、運営推進会議以外では電話やケアカフェで連絡を取り合い協力関係を築ける様に心掛けています。	管理者は、役場職員や介護施設、病院関係者が出席するケアカフェに参加して定期的に情報交換をしている。何かあれば、担当者や保護課の職員と電話連絡を取り、すぐに相談できる関係を日頃から築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修や講習に参加して、資料は常に目が通せる所に綴り、日々の業務や会議でも話し合い身体拘束がないケアに取り組んでいます。	禁止の対象となる具体的な行為を記載した法人共通のマニュアルを整備している。日々のケアの中で、行動を抑制するような声かけや身体拘束につながるような行為があればその都度指導している。禁止行為に関する勉強会は行っていない。	「禁止の対象となる具体的な行為」11項目について年1回は勉強会を実施し、全職員で理解を深めるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修や講習に参加して常に入居者様の身体・精神的变化に気を配り、何か変化があった場合はホームの職員全員で話し合い、原因究明に努め虐待ゼロを目指しています。		

グループホーム えぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や講習などに出来るだけ参加して知識を深め、必要な時にはいつでも活用できる様に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には契約書・重要事項説明書を十分に説明を行い理解・納得して頂き、一部ずつお渡ししています。又、退去時にも不安を取り除く様に努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の話には傾聴する様に心掛けています。ご家族には面会時に近況をお話したり、毎月発行の事業所便りで報告しています。又、ご家族満足度アンケートを実施し要望や希望の把握に努め、サービス向上に反映する様に努めています。	来訪時や家族会の時に利用者の様子を伝えながら、意見や要望を聞き取るようにしている。意見や要望、家族とのやり取りなどは生活記録や職員間の連絡ノートに記入して情報を共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のフロア会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映出来る様に努めています。又、普段より意見交換のしやすい職場作りを心掛けています。年度初めには職員の意見を取り入れた目標管理シートを作成し、方向性を同じくした介護に取り組んでいます。	会議の司会進行役を交代で行い、率直な意見交換を行っている。会議に出席できない夜勤者の意見も事前に聞き取り、全員の意見が反映できるように努めている。法人間の交換研修で得た情報を基に、ケアやレクリエーションなどについて全職員で検討することもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の努力・実績などを把握する様に心掛け、負担が掛からないような勤務体制作りを工夫し常に向上心を持って働けるような環境・条件整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務大勢の調整を行い、グループホーム勉強会・施設内研修・施設外研修に積極的に参加できるように努めています。参加後には報告書を提出し、会議等で意見交換を行い情報共有に努め、職員の知識・意識の向上に繋げるように心掛けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当施設内グループホーム交換研修を実施したり、グループホーム勉強会でのグループワークなどでグループホーム内交流を行っています。又、月に一度のめむろケアカフェに参加し町内の他事業所との交流も行っていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけご本人の生活の場でアセスメントするように努めています。ご本人からの訴えを見過ごす事なく、お話を聴き不安・要望をしっかりと受け止め安心して生活して頂ける様に心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時面接や契約時にご家族の不安や要望をお聞きしご協力の中、支援を行う様に努めています。又、入居後も面会時や電話などで情報交換をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活歴を把握する為、ご本人とご家族に積極的に対話するように努め、他サービス利用の必要がある場合は関係機関より情報を収集し、速やかに検討を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中でその人に出来る作業やお手伝いを一緒にする事でコミュニケーションを図り、より密接な関係を築ける様に努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問しやすい環境作りに心掛け、面会時には積極的に会話しています。その中でご家族の思いを把握し共に入居者様を支える事が出来る関係作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた近所の知人の訪問や、友人が訪問しやすい環境作りに心掛けています。又、入居者様からの希望がある場合はご家族の協力を得たりして出来る限り外出の機会を作る様に努めています。	併設している高齢者介護予防施設に通所している知人や近所に住んでいた方が来訪することもある。職員と一緒に、商店街の馴染みの店にパンや和菓子を買いに出かけている。家族と一緒に結婚式や法要に出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様は居間へ集まる事が多く、楽しいお話をしたりレクリエーション等で交流を図っています。不都合が生じた場合は職員が間に入り支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も入院先、新施設等へ訪問する様に心掛け、出来る限り相談や支援をさせて頂く様に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でお話をする時間を作る様に努め、ご本人の希望や意向を把握する様に努め、安全で安心した生活を送れる様に心掛けています。	会話や目の表情、発語などから思いや意向を把握している。生活歴の趣味欄に変化を一部は追記しているが、今後はセンター方式シート(B-3)を活用し書類を統一しながら更新したいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からお話を伺い必要時には関係機関から情報提供して頂き、支援に活かせる様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々現状把握に努めて、自身で出来る事は積極的に行って頂き、変化があれば生活記録や連絡ノートにて職員全員に周知し把握できる様に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望や要望の把握に努め、毎月のカンファレンスを参考に担当者がモニタリングもを行い、現状に即した介護計画を作成しています。	利用者担当職員を中心に詳細に評価を行い、6か月毎に介護計画を作成している。介護計画書1表は、介護認定期間に合わせて更新している。今後は介護計画の見直し時に1表を添付し、家族の意向に沿った2表への連動性を考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の現況を記録し、職員間は連絡ノートを用いて常に新しい情報を共有できる様に努め、統一されたケアの実践や介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じてご本人、ご家族のニーズに対応できるように、必要時には本体の老健の関係者へ相談を行い意見を頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、入居者様が安全で安心して豊かな生活を楽しめる様に支援させて頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週でホーム主治医に往診して頂き、継続的な医療を提供しています。専門医受診の場合は主治医に紹介状を書いて頂き対応しています。又、訪問看護師の毎週の訪問にて健康管理や相談を行っています。	全員が協力医療機関の往診を受けている。家族が専門医などの受診に同行する時は、主治医と書面で情報交換しながら適切な医療を受けられるように支援している。受診は「受診経過記録」、往診は「生活記録」に個別に記録している。	

グループホーム えぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に気になる点、変化があった場合には直ぐに相談して入居者様の健康管理に適切な対応が出来る様に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはその方の日常生活、注意する点等を記入した資料をお渡ししています。入院中もご家族、病院関係者と連絡を密に取り退院後も安心した生活が出来る様に支援しています。又、町のケアカフェでの集まりでは積極的に情報交換を行う様に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の重要事項説明書に記載されている重度化した場合における指針を説明しご本人やご家族の希望を確認し、必要時には主治医、ご家族、関係者で早い段階から話し合いをして方向性を共有する様に努めています。	利用開始時に「重度化した場合における(看取り)指針」に沿って説明し、医療行為が必要になった時は事業所での対応が難しいことを伝えている。体調変化に応じて主治医、家族、事業所で方針を話し合い、希望に応じて看取りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会等に積極的に参加をする様に心掛け又、日々の自己学習にて実践力を身につけ急変や事故対応に早急に対処出来るように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者様参加の避難訓練を年2回は実施し、一度は夜間想定で行われています。町内会の方にも参加して頂き協力体制を築く様に努めています。	消防署の指導の下、町内会長も参加して昼夜の火災を想定した避難訓練を毎年実施している。今年度は災害対策として法人合同で水害対策の講話を実施したため、利用者参加の避難訓練は1回のみになっている。職員は救命講習を受講している。	利用者参加の避難訓練を年2回実施するよう期待したい。また、地震などを想定して、室内の危険箇所の確認やケア別の対応などについて職員間で話し合うよう期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者様1人ひとりの人格を尊重し思いやりのある対応を心掛けています。記録は鍵のかかるロッカーで保管を行っています。	利用者を尊重した言葉がけで日々接している。申し送り時には名前をイニシャルで伝え、日々の記録もパソコン上で個人情報に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現をされない方もいらっしゃいますが、ご本人の思いをくみ取る努力を行い、出来る限り自己決定をして頂けるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先する事なく、1人ひとりの表情や様子を観察しながら、その方のペースを大切に希望に添った支援をするように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を活用し、その方の希望される身だしなみが出来るよう支援しています。毎日着る服を一緒に選んだり、時には一緒に衣類を購入するために出掛ける支援も行っています。		

グループホーム えぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の有する力に合わせ食事の準備、片付け等を一緒にしている。献立も入居者様の希望を伺い作成するように心掛けています。	ユニット毎に別メニューで、季節料理などの美味しい食事を提供している。調理やおやつ、漬物作りに利用者も参加し、年4回の豪華な手づくりバイキングは利用者と職員で楽しむ機会になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの食事形態を把握し適切な食事量、栄養のバランスが確保できるよう支援しています。年2回は本体老健の栄養士にメニューを見て頂いています。水分摂取は一覧表に記入し職員全員が把握出来るようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを支援しており、その方の力に応じ職員が支援行っています。又、必要な方には定期的に歯科医師に往診して頂き処置をお願いしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄を一覧表に記入しパターンを把握できるようにして、間隔や本人の状態、意思表示により声掛け誘導を行い、自立した排泄が出来るように支援しています。	昼夜ともトイレでの排泄を基本に、可能な限り布パンツで過ごし、パターンを把握して失敗を少なくしている。夜間は紙パンツや大きめのパッドを使用することもあるが、利用者話し合い日中は布に変えて気持ちよく過ごせるように対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて排便チェックを行い、予防として野菜中心の献立作り、水分量にも気を配り、乳製品も摂って頂き、ラジオ体操、フロア内の歩行運動等の適度な運動もして頂くよう支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回、ご本人の意向、体調、希望等を考慮し気持ち良く入浴をして頂けるよう支援しています。	主に月～土曜日を入浴日とし、3日に1回の目標で午前・午後に入浴を支援している。意向に沿って同性介助にも対応している。入浴中は全員が湯船に入り、入浴剤の香りを楽しんだり、職員と一緒に歌をうたいながらゆったりと入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの習慣に合わせて休息を取って頂いていますが、日中適度な運動やレクリエーション、作業に参加して頂き、夜間良眠出来るように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方箋を確認し服薬について理解、把握をする様に努めています。変化があった場合は直ぐに連絡ノートにて周知し、症状の変化については常に確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節、天候が良ければ散歩や行事を企画し外出して頂いています。又、日々その方の好む作業やレクリエーションを提供し役割のある生活を送って頂けるように努めています。		

グループホーム えぞりす・花しようぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によりますが散歩をしたり、花見や紅葉狩り、地域のイベント、外食へも出掛けています。ご本人の希望にて担当職員と個別外出も行っていきます。ご家族とも気軽に外出して頂いています。	暖かい時期には車椅子の利用者も周囲を散歩し、玄関先でお菓子を食べて外気に触れている。スーパの買い物やパン屋に出かけている。市役所の展望ホールで回転寿司を食べるなど、外出行事に外食を取り入れてドライブを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族と相談の上ホームでお預かりし管理させて頂いています。購入したい物がある場合は職員が代行したり、一緒に買い物へ出掛けています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く機会は中々ありませんが、ご本人の希望にてキーパーソン様へ電話を掛けたり、ご家族や知人の方から電話が掛かってきたりしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンで光の調整をしたり、温湿度計を設置し快適に過ごせるよう管理し、家庭的で落ち着いた空間作りに努めています。又、入居者様と毎月創作物を作成し展示したり、廊下には外出、行事ごとの写真を掲示し入居者様やご家族様に楽しんで頂いています。	共用空間はお洒落なデザインで、回廊式の廊下にて沿って居室を配置している。廊下の少し奥に各居室のドアがあり、居間からトイレが見えないなどプライバシーに配慮した造りになっている。壁には利用者の暮らしが分かる写真や作品を掲示し、温もりのある居心地のよい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆様、居間や食堂にて過ごされる事が多く、自然と居場所も決まっている様子。皆様でお話したり居室で過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物をお持ち頂く様にお話しています。入居者様1人ひとりが使用しやすい様、それぞれの物の配置も違いご本人、ご家族と相談しながら居心地良く過ごせる様に工夫をしています。	居室に造り付けのクローゼットと洗面台を用意し、馴染みの家具類や普段から愛用していた小物、文房具などが持ち込まれている。壁には暦や家族の写真、毎月製作している作品などを飾り、好きなものに囲まれて居心地よい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室の場所が分かりやすい様に札を付け目に付きやすい高さや位置にも工夫しています。車椅子の方にも手すりを活用し自立支援を行っています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700456		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	グループホームえぞりす・花しょうぶ(花しょうぶ)		
所在地	河西郡芽室町東3条1丁目2番地		
自己評価作成日	平成30年1月20日	評価結果市町村受理日	平成30年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム花しょうぶは、芽室町の中心街にあり、役場などの公共施設や病院、商店街とも近く、また、地域の住民の足であるコミバスのバス停も近くにありとても便利な所です。建物一階と隣の建物が芽室町が運営する高齢者介護予防支援事業のひまわりがあり、そこを利用されている方も多く訪問されています。また、毎日の生活の中では、出来る事をお手伝いして頂くなど楽しみのある毎日を送って頂ける様に支援しています。その中でも創作活動には特に力を入れ、季節ごと制作する作品は、毎年、秋の町民文化展に出品しています。他にも気候の良い時は、ドライブに出掛けたり、外食をしたり、楽しんで頂いています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0194700456-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年2月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を玄関や事務所に提示しいつも目に目に触れるようにしています。職員は全員で理念を共有できるように努力しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しています。行事などに参加していただいたりと交流を続けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流はまだ少ないです。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度定期的を開催しています。芽室町・ご家族・町内の方に参加していただき、皆さんの意見を取り入れる様にしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月一度開催されている芽室ケアカフェに参加し連絡を密にして情報の共有をしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作り、研修会などにも参加して身体拘束の無いケアに取り組んでいます。玄関の施錠は、防犯の為、夜間のみ行なっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は何時も身体的精神的な変化を見逃さない様にし何か変化があった場合は原因を追求し虐待防止に努めています。		

グループホーム えぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を必要としている方はいませんがいつでも活用できるように心がけています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、利用契約書や重要事項説明書をお渡しし、納得がいくまで説明を行なっています。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、満足度アンケートを実施し、また玄関に意見箱を設置し意見を反映できるように努めています。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議の内容は月に一度のフロア会議などで職員に伝え、意見を聞き、働きやすい職場作りを心がけています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の負担にならないように心がけやりがいを持って長く働ける様に環境整備などに努めています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や勉強会には出来るだけ参加出来るように勤務体制の調整を行ない、参加者は報告書を通じ不参加の職員にも伝え知識の向上につなげています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交換研修を実施し、他のホームとの交流を通じてより良いサービス向上に向けて取り組んでいます。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけご本人の生活の場でアセスメントするように心がけています。不安な事や要望を受け止め支援するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	りらく相談課と連携し、お話を伺ってより良い関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活歴を伺い把握するため積極的にお話を伺っています。他のサービスが必要になった時には関係機関に相談し速やかに対処します。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中でその方に出来る事をお手伝い頂きより良い関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問しやすい環境を作り心掛けています。面会時にはご家族様とお話しし家族の思いを把握し、ともに入居者様を支えられる関係作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問しやすい環境作りを心がけ、外出や外泊が出来る機会を作る配慮をしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様、居間で過ごされる時間が長く、お話しされたりと交流されています。何か不都合があった時は職員が間に入って支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も入院先や施設等に訪問し出来る限りの支援をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中でご本人やご家族の希望を伺い意向に沿った支援が出来るように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やケアマネからできるだけ今迄の生活の様子を伺い情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々現状把握に努めて一人一人の生活のペースを観察し変化があれば生活記録や連絡ノートを使い職員全体で周知しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望を元にカンファレンス会議で話し合いモニタリングを行ない現状に即した介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理日誌・生活記録に日々の様子を記録し新しい情報を共有しながらケアの実践や介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じた対応が出来るように努め必要な場合は他事業所や本体の関係者に相談しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め皆さんが安心して暮らせるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で定期的に主治医の往診があり継続医療を提供しています。専門医受診の場合は主治医に紹介状を書いて頂いています。		

グループホーム えぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気が付いた事は直ぐに看護師に相談し助言を求めて適切な対応が出来るようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、日常の様子や注意点をまとめた資料を担当者に渡しています。入院中も密に連絡を取り良好な関係作りを行なっています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に今後の方向性などをご家族と話し合う様に努め必要な時は関係者と十分な話し合いを行なっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会や勉強会に出来るだけ参加し全職員が緊急時に対応出来るように努力しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者や町内会の方にも参加していただき、年二回の避難訓練を行っています。防災のマニュアルを作成し災害に備えています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に皆さんの人格を尊重し思いやりのある対応をや声掛けを心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ気持ちを汲み取り自己決定して頂ける様に支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先する事無く入居者様の生活ペースを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容等を利用し好みに合った身だしなみが出来るように支援しています。		

グループホーム えぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は一週間ごとに職員が考えています。定期的にはバイキングランチを行なう等メニューにも気を配り、準備や片付けも一緒に行っています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や食事量を適切に把握し、水分量も飲水表を記録し脱水にならない様にチェックしています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア行ない、歯科医師の定期的な往診もあり清潔を保っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄記録をつけパターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄の自立に向けた支援を行っています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の献立は野菜中心にするなど工夫しラジオ体操や廊下を歩いて運動して頂くなど個々に応じた便秘の予防に取り組んでいます。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	状況によっては時間を決めている方もいらっしゃいますが体調などを考慮し個々の希望にそった支援をしています。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や生活習慣にあわせて休息して頂いています。日中は体を動かし夜間良眠出来るように支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋はその都度確認しています。症状の変化も常に確認しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節や天気に応じて散歩や外出を行なって楽しみのある生活を送って頂ける様に支援しています。			

グループホーム えぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の会話の中から希望を伺い、ドライブや外食に出掛けています。時にはご家族に声を掛け協力して頂いています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金を預かり必要な物を職員が買い物したり一緒に買い物に出掛けたりしています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く機会はほとんどありませんが希望があれば何時でも気兼ねなく電話をかけて頂いています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごせるように家庭的な雰囲気作り心がけています。廊下には外出時の写真や季節ごとに制作している貼り絵や個人的な作品を展示し楽しんで頂いています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さん居間で過ごされる時間が長いのですが、時には他者の居室を訪問しお話しされています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具を持参して頂き居心地良く過ごして頂いています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には札をかけ、わかやすいように工夫しています。安全に出来るだけ自立出来るように支援しています。			

目標達成計画

事業所名 グループホームえぞりす・花しょうぶ

作成日：平成 30年 2月 19日

市町村受理日：平成 30年 2月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議への家族の出席率が低いので、出席率を上げるためにはどうしていけば良いのか。	家族の出席率が低いので30年度からは意見でも参加が出来る様に努めて行く。	テーマを決めた会議案内を全家庭に送封する様に努める。	1年
2	6	身体拘束の11項目を理解していない職員がいました。マニュアルはあったものの目の届く場所に掲示していなかった。	身体拘束の11項目を理解し実践していく。	11項目を目の届く場所に掲示し、勉強会やフロア会議でより深く理解していく。	1年
3	35	地震想定避難訓練を行っていません。避難訓練を行っていたものの火災対応であった。	地震の避難訓練も実施し危険箇所の確認、ケア別の対応を各ホームで話し合う。	地震対応の訓練も行って行く様にはたらきかけ、入居者様にも参加して頂く。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。